

岡崎むかし館

げ 下 駄 ・ そ う り

下駄 (男物)



岡崎むかし館 蔵

高下駄 (女物/つまかけ付)



岡崎むかし館 蔵

庭下駄



岡崎むかし館 蔵

わらぞうり



岡崎むかし館 蔵

はきものを入れておく仕切りのある棚を、皆さんはなんと呼んでいますか？「くつ箱」あるいは「下駄箱」と呼んでいる人もいるのではないのでしょうか。今では「はきもの」の中心はくつですが、日常生活で、きものを着る機会がまだまだ多かった昭和 20 年代の初め頃までは、下駄やぞうりが、はきもの中心でした。下駄は農作業の道具として、弥生時代の遺跡などからも発見されていますが、庶民の日常のはきものとして広まったのは、木材を加工する道具が発達した江戸時代の中頃になります。一方、ぞうりは中国からの伝来品で平安時代には僧侶の間で用いられ、現代では和装の主要なはきものとなっています。

下駄やぞうりは、足全体をおおう構造ではないため、湿度の高い日本の風土に適した風通しのよいはきものです。また、住居ではきものを脱ぐ生活習慣である日本人にとって、鼻緒に足の指をかけるだけで、はいたり脱いだりが簡単にできる下駄やぞうりは都合がよく、まさに日本の風土やライフスタイルから生まれたはきものです。

<参考文献> 『絵引民具の事典』岩井宏美ほか、河出書房新社、2008

『日本民具辞典』日本民具学会ぎょうせい、1997

『はきもののみなし』(人間の知恵18)掛田純子さ・え・ら書房1985